

# 運動会はどういう場なのか

中一ギャップを埋める

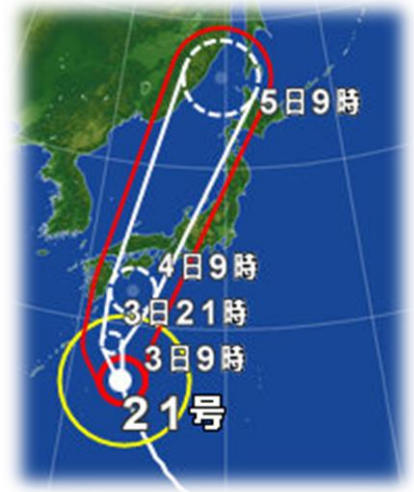
2018.09.03

No.29

校長 渡邊 幸二

全体練習、お疲れ様でした。

今週は、最強の台風21号の接近が心配されます。この分ですと、4日の深夜から5日の朝方が最接近と予想されます。5日の登校時がまた心配ですが、今後の市教委・校長会の対応にも注意しながら、早め早めで対策を考えて行きましょう。



## 運動会、当日の活躍のために

運動会の総練習を初めて見せていただきました。先生方がてきぱきと行動・準備している様子がチームワークのよさを表していると思いました。

先日の朝会でも話し、学校だよりにも書いたことなので、先生方には十分わかっていただけていると思いますが、運動会の意義についてもう一度考えたいと思います。

運動会の指導の勘どころは、当日ではなく**そのプロセス**にあります。

たとえば、今日の練習の中で言う「整列」の場面です。グラウンドに集合した子どもたちを並ばせる時、もしまだ先生が言わないと行動できていないとしたら、次からは子

どもだけでやるよう事前に指導をしておかなければならないでしょう。また、競技のための整列や入場も、最終的には子どもがやれるレベルの動きだと思います。「玉入れ」の集合・整列、そして競技場所への移動、競技スタートの準備、そして競技終了後の片付けや移動、陣地への整列は、今日の時点では教師が手本を示したとしても、**最終的には子どもたちでできるように指導**いただいていると思います。



さまざまな場面で、先生方が「指導」にあたるのは、運動会がすばらしい見栄えとなるように指導するものではありません。子どもたちを安全に渡すのが「登校指導」でなく、子どもが自らの力で安全に登校できるように指導することが登校指導でした。運動会の指導も全く同じです(もっと言えば、日々の学習指導も同じです)。**子どもたちが、運動会当日、自ら考えて主体的に行動できるように種を蒔いておく**ことが運動会の指導の勘ど

ころです。「○○○競争」という競技をするために、ゼッケンを置いている場所を確認したり、返す時の注意点を理解したりしておくことが事前の指導でしょう。選手である子どもたちに教師が先回りをして渡してあげたり受け取ってあげたりすることは、結局は子どもの主体性や自己管理力の育成に逆行することになるのではないかと考えます。



こういう主体的な動きを引き出す指導することは大変ですし、この短い期間で身につけさせるのは至難の技だということもわかります。しかし、そういう主体的に活動を創り上げる力を育成せず、教師に頼るように指導する、教師の指示を待ち守らせる(そして見栄えの良い運動会にする)ような指導は果たして子どもを幸せにするのでしょうか。そういう一見ていねいな指導(実はそのていねいさが子どもの主体性の伸長を阻害している)こそが、私たち小学校教師がいつまでも中一ギャップを埋められずにいる大きな原因です。

だいぶきつい言い方になりました。お許してください。

しかし、子どもたちはもっともっと主体的に動ける存在だと思っています。



たとえば……今日の練習の様子を見ると、おそらく応援のポンポンからたくさんのビニールテープのくずが飛び散ることでしょう。それはこれからの練習でも当日も散らばり、グラウンドのあちこちに、体育館の床の隅の方にゴミとなって溜まることでしょう。そのゴミくずだらけの練習場所やグラウンドを見ても何も感じない子どもには

したくない！先生がそれを拾って片付けるような運動会にしたくない。たとえ運動会の点数では完敗したとしても、こういうところでは絶対に負けないぞという意地を見せる子どもであって欲しいと願っています。

もちろん、放っておいてそんなふうに行動できるわけではないでしょう。今回は教師の力技がやや強めに入るとしても、やがて浜田っ子が、そういうところに思いを馳せて、自ら課題を見つけて行動できる子どもに育つのではないかと思います。

どうか子どもたちの主体性を伸ばしてあげてください。よろしく願います。

今日の朝会で「感謝」の言葉が言える子ども、言われる子どもになるようにという話をしました。「浜田ブランド」の確立のために、こちらもよろしく願います。